

Case : 407

歩行器を手すり代わりに立たせていたら、ブレーキがかかっておらず転びそうになった

場面の説明

入浴後、歩行器を手すり代わりに頼らせて目を離したところ、ブレーキがかかっていなかったため転倒しそうになった



| | |
|----------------|--|
| 利用シーン |  移動 |
| 主な利用場所 |  浴室・脱衣所 |
| 介護保険の種目 |  歩行器 |
| 分類コード (CCTA95) | 120606 (歩行車) |
| 介護テクノロジー | — |
| 二次元バーコード |  |

解説

入浴後で疲れがあったことも考えられます。立たせたまま髪の手入れなどを行うなどのときも同様ですが、たとえブレーキを確認していても歩行器を手すり代わりにすることはやめ、椅子を用意しましょう。やむを得ず立ったままの姿勢でケアをする際には手すりを利用し、また目を離さないなど作業手順を考慮しましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：いつもの手順だったので、ブレーキにも特段の注意を払わなかった
- 環境：脱衣室が狭く、椅子を用意することができなかった
- 管理：作業手順を検討したことがなかった